

令和6年度 BIMライブラリ技術研究組合 (部会2・BLCJ)活動報告 (中間報告)

建築BIM推進会議2024/12/25

BLCJ

今年度の活動について

- 本年度は技術研究組合としての研究活動の6年度目である。
- 当組合は事業期間を2年間延長し、当初の実施計画にかかげた目標を達成すべく、BIMオブジェクト標準の拡充とそれに基づく試験用BIMライブラリの社会実装に向けた試験研究を進めている。

(当面の目標)

①前年度公表したBIMオブジェクト標準Ver.2.0の拡充

②試験用BIMライブラリの試行運用

- R5補正予算での「建築BIMによる設計環境の構築方法等に関する調査」については、新たにR5補正タスクグループを立ち上げ、調査業務を実施している。
- 上記の調査業務については、当組合の試験研究との整合性を図り、相互に補完するよう実施している。

1. 入出力基準・設計者チェックリスト等の検討

(1) 多様な建築設計の実務に応じたユースケースでの検討

令和4年度第二次補正予算による検討成果を踏まえ、BIM図面審査の実施に向け、入出力基準・設計者チェック

リストのとりまとめを進めている。また、それらを補完するサンプルモデル等の整備を進めている。

具体的には、実務での利用を念頭に、次の課題に対する検討を行っている。

- ①建物規模がより大きい案件（3000㎡程度の庁舎・事務所モデル）
について想定される課題
- ②複合用途の建物に特有の課題（主に面積算定）
- ③排煙、採光、換気等に関して想定される課題

また、BIMデータを作成する際の入力の変異や、異なるBIMソフトウェアでの相違について整理を進めている。

(2) 実務者の視点を踏まえた実用性の向上

- 前年度に作成した入出力基準・設計者チェックリストに対して、実務者の視点からの意見、質問等を広く把握し、それらを整理・検討している。
- 今後、上記及び(1)の検討結果を踏まえ、必要に応じて前年度の成果に反映し、令和6年度版として取りまとめる。

2. 属性情報の整理・拡充

上記1. の検討を踏まえ、前年度に整理した「建築確認申請に必要な属性情報」について追加・修正を行う。

その際、BLCJ BIMオブジェクト標準Ver.2.0(以下「標準Ver.2.0」という。)との整合を図る。

3. BIMを用いた確認申請に参考となる確認申請図の作成

建物規模がより大きな事例について確認申請図一式を作成している。

また建物用途のバリエーションに応じた個別の課題(面積算定等)について検討している。

4. BIMデータ審査に向けて想定される課題の整理

今後予定されているBIMデータ審査に向けて、想定される課題を整理し、課題への対応方策を整理する。

5. BIMを用いた設計環境の検討

消防法への対応、省エネ適合判定等に関し、将来必要となる情報の検討を行う。

注) ※はR5補正予算による調査業務と関連する項目

1. BIMオブジェクトの標準化

・標準Ver. 2.0については、2023年12月に公表したところであるが、一部未整理部分の検討・整理、対象範囲の拡充を行い、内容の充実を図っている。※

2. BIM ライブラリの構築・運用

機器等のメーカー、BIMベンダー、民間ライブラリサイトとの連携のもと、ポータル的な役割を持つBIMライブラリサイトを試験的に設置すべく検討を進めている。BIMライブラリの全組合員での試行を予定している。

・ライブラリを運用する上で知的財産の保護・活用等に必要な関係規約類の整備を進めている。

・標準Ver. 2.0に準拠したBIMオブジェクトの整備を進めている。※

3. BIMによる円滑な情報連携の実現

- ・建築物の仕様に関する情報とBIMデータとの連携が拡大するよう情報収集・整理を行っている。
- ・建築物の引渡し、維持管理・運用段階におけるBIMデータの活用に向けて情報収集・整理を行っている。

4. 周辺領域との連携技術

- ・周辺領域の技術開発に関する情報収集を引き続き実施している。